



【事業所参観日 ～11月4日～】

11月4日（水）に事業所参観日が行われました。コロナ禍で、県内の感染者が増えている状況の中で、参加くださる事業所も主催する学校も一層感染対策を心掛けながらの開催となりました。

この行事は、授業の様子を見ていただくことで、生徒への理解を深め、卒業後の就労先や現場実習先となつてくださる事業所を増やすことを目的としています。

今回の参観日は、授業参観の他に、（株）キョウセイの工場長 太田様にご講演いただきました。（株）キョウセイは、社員数の63%が障害のある方で、その方々の安定就労と社会的・経済的自立をめざしている会社です。防振ゴムの生産を行っており、社員個々の特性を理解し、安全や品質についての分かりやすい『ルール』の指導を徹底しています。

【みどりの活動 ～みんなで どんどん りそうをめざす～】

「みどりの活動」は（株）キョウセイが2017年から取り組んでいる活動で、全職員で工場の『あるべき姿』＝『現状の人員で生産性1.5倍』を考えたときに生まれたものです。

『現状の人員で生産性1.5倍』にするには『笑顔あふれる従業員が主役の工場』にしなければならないと考え、実際に作業をしている従業員の意見・目線を大切に、従業員主体の改善活動に取り組まれたそうです。

【実際の改善例】

まず、問題マップ作りのために、「重い」「暗い」「うるさい」「まぶしい」「物が落ちる」などのピクトグラム（絵文字）を工場内の地図に貼っていきました。

「困っていることはありませんか？」と尋ねられても、困っていることに気付きにくい、困っていることを言葉で伝える人にとっては、ピクトグラムを貼っていく作業は取り組みやすいと思います。

改善されたこととしては、ニッパーが使いこなせない人のために治具を開発したり、腰を曲げる作業を軽減するために昇降リフターを設置したり…。従業員の困っていることが改善されることで、働きやすい職場になったそうです。



（当日のスライドより）

【講演を終えて】

太田工場長のお話には、本校の授業でも参考になることが沢山ありました。段ボール箱を運ぶ際に「高く積まない」と言っても、人によって『高い』の基準が違うので、工場内には床から140cmの位置に印が付けられているそうです。本校の卒業生を「戦力として活躍してくれている」とおっしゃっていただきました。卒業生の活躍を嬉しく思いました。

（まきび地域学校協働本部副委員長・校長 西 千秋）